

コンテンツ専門調査会 企画WG第4回（資料）

東京アニメセンター
久保 雅一

1. 次世代DVDのフォーマット問題について

- 「Blu Ray」と「HD-DVD」の二つのフォーマットが存在することは、コンテンツ促進または地球資源的観点から見て、大きなマイナスがあります。確認のため、再度具体例を挙げますと…、
 1. 店頭での販売可能コンテンツ数が半分になる。
 2. 買い控えユーザーが多いため、普及速度が鈍い。宣伝が無駄うちに。
 3. コンパチ機は韓国メーカーよりいち早く発表されており、日本国内では勝者不在になる可能性がある。
 4. “ vs VHS”の事例から考えても、どちらかのハードとメディアは産業廃棄物にしかない。エネルギー・資源の無駄使い。
- 政府は、単なる民間企業間の争いと位置づけず、積極的な調整作業を行うべきだと思量します。コンテンツメーカーとして、環境面からは日本国民として強く希望したいと思います。

2. 英語版hpの推進とポータルサイトについて

- 東京アニメセンターのhpでは、日英の2カ国語対応を続けています。ほぼ、毎日更新しているため翻訳作業コストは無視できない金額になっていますが、海外からのアクセス数が予想以上に多く止めることはできない状況です。
- 海外からのアクセス数が多い背景には、中小のコンテンツ企業がなかなか英語版hpを作らない実情があります。その理由として…、
 1. 翻訳スタッフがいらない。翻訳コストが高い。
 2. 英語版hpを作っても、海外からの問い合わせは冷やかし的なものが増えるだけ。一々答えるのが面倒。
 3. 日常的にコンテンツ売買している会社の数は多くない。
 4. コンテンツ販売益が飛行機代に満たないような国へのビジネスには中々熱心になれない。韓国では国からのサポートがしっかりしている。
- コンテンツ企業の国際展開の負担軽減として、国外に開いたポータルサイト作りは必要なステップです。現在、経団連で進めているサイト作りは予算が少なく、実作業が企業規模に関係なく、個々のコンテンツ企業に託されてきています。正直な話、迷惑と思い始めた企業も少なくありません。早急に関係省庁全体で経団連のポータルサイト事業をサポートして頂き、中小のコンテンツ企業にしわ寄せがいかないよう希望します。
- 英語翻訳を容易にする環境作りが必要と考えます。コンテンツの国際化を促すためにも英語教育の観点からも、英語翻訳ソフトの進化は重要なポイントです。現在、翻訳ソフトの開発は民間ベースで行われていると聞いていますが、なんらかの政策を政府の知財総合戦略の一つとして検討して頂けると幸いです。

以上です。